

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
 ご利用いただきたくご案内いたします。
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を
 重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ
 どよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■実施日 2018年12月25日(火) ご依頼分より

■新規項目内容一覧

項目 コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
2875 8	曜日指定 FLT3変異解析 ITD/TKD	骨髓液 1.0	H00 (H)	冷蔵 (3日間)	10~14	2100 + 2100 ※2	PCR- キャピラリー 電気泳動法	陰性	重凍 凍結保存は避けてく ださい。受託可能日 は月~金曜日です。 他項目との重複依頼 は避けてください。 本検査方法ではコン タミネーションの影 響がより大きくなり ますので、検体採取 にあたっては取り扱 いに充分ご注意ください。 &1
		血液 3.0 (ヘパリン加)	PH5 (G)						

※2：血液学的検査判断料

● FLT3変異解析ITD/TKD

AML（急性骨髄性白血病）におけるソスパタ®の投与判断に用いる検査です。

FLT3遺伝子は、がんの増殖に関与する遺伝子で、AML患者の約1/3で変異が認められると報告されています。FLT3遺伝子は、AML患者の層別化および予後予測に有用なバイオマーカーとして知られており、変異のある患者は、ない患者に比べて再発率が高く予後も不良といわれています。

近年、FLT3は新たなAML治療の標的分子として注目され、治療薬としてFLT3阻害剤の開発が進められてきました。

本検査は、FLT3遺伝子にある遺伝子内縦列重複変異(ITD)とチロシンキナーゼドメイン変異(TKD)の2つの変異を検出し、FLT3阻害薬ソスパタ®（ギルテリチニブフマル酸塩）の投与判断の補助に用いられます。

▼疾患との関連

急性骨髄性白血病

▼関連する主な検査項目

NPM1変異解析

▼検査要項

検査項目名	曜日指定 FLT3変異解析ITD/TKD	
項目コードNo.	2875 8	
検体量	骨髄液 1.0 mL	血液 3.0 mL
容器	H00 (H) 保存液入り	PH5 (G) ヘパリンNa加
保存方法	冷蔵保存してください	
所要日数	10~14 日	
検査方法	PCR-キャピラリー電気泳動法	
基準値	陰性	
検査実施料	2100 + 2100 点 (「D006-2」造血器腫瘍遺伝子検査)	
判断料	125点 (血液学的検査判断料)	
備考	重 凍 凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 &1	

年内の最終受付日は12月28日(金)とさせていただきます。年始は1月4日(金)より開始いたします。

●FLT3変異解析の判定基準

FLT3変異解析		ITD allele ratio	
		0.05未満	0.05以上
TKD allele ratio	0.05 未満	陰性	陽性
	0.05 以上	陽性	陽性

●参考文献

Murphy KM, et al : J Mol Diagn 5 (2) : 96~102, 2003. (検査方法参考文献)

Yamamoto Y, et al : Blood 97 (8) : 2434~2439, 2001. (臨床的意義参考文献)